



2020. 1 No.198
2020.JANUARY

Main Reports

- 吉村会長 2020年年頭所感
- 2020年新年賀詞交歓会を開催
- 寄稿：CODAの2019年の活動を振り返る
CODA代表理事・JVA専務理事 後藤健郎



一般社団法人
日本映像ソフト協会 会報

2019年11月度

(金額:百万円 数量:千枚)

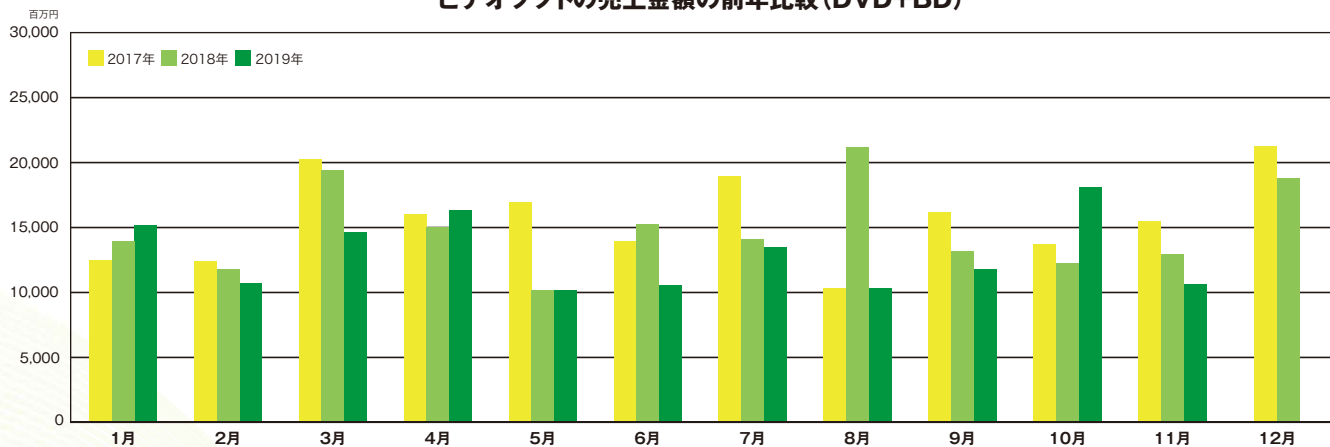
	11月実績 (金額単位:百万円 数量単位:千本・千枚)									1月～11月の累計								
	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同月比	新作数	前年同月比	売上金額の増減社数	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同月比	新作数	前年同月比	
販売用(個人向)	2,533	57.8%	60.5%	776	34.7%	62.6%	292	82.5%	増減 6社 19社 4社	42,860	64.3%	80.0%	11,888	42.5%	83.2%	3,078	82.7%	
特殊ルート	17	0.4%	34.0%	25	1.1%	31.1%	5	125.0%		249	0.4%	65.2%	750	2.7%	78.9%	40	117.6%	
レンタル店用	1,794	41.0%	72.4%	1,431	64.0%	74.4%	452	109.7%		23,032	34.6%	79.2%	15,195	54.3%	76.0%	3,894	83.8%	
業務用	36	0.8%	83.7%	5	0.2%	0.9%	7	46.7%		479	0.7%	98.0%	137	0.5%	19.7%	148	48.2%	
DVDビデオ	4,380	40.9%	64.8%	2,237	60.4%	59.5%	756	96.3%	増減 15社 10社 4社	66,620	46.7%	79.8%	27,971	65.6%	77.9%	7,160	82.2%	
販売用(個人向)	6,137	96.8%	97.0%	1,285	87.5%	106.0%	211	77.0%		72,847	95.9%	99.6%	13,065	89.2%	97.9%	2,559	98.5%	
特殊ルート	7	0.1%	20.0%	2	0.1%	1.6%	1	50.0%		202	0.3%	98.5%	54	0.4%	26.9%	17	73.9%	
レンタル店用	179	2.8%	75.2%	180	12.2%	83.4%	11	47.8%		2,714	3.6%	86.5%	1,505	10.3%	80.9%	173	76.5%	
業務用	16	0.3%	145.5%	2	0.1%	82.7%	0	-		177	0.2%	213.3%	27	0.2%	154.3%	0	0.0%	
ブルーレイ (ULTRA HD Blu-rayを含む)	6,339	59.1%	95.9%	1,469	39.6%	94.0%	223	74.6%		75,940	53.3%	99.2%	14,652	34.4%	95.0%	2,749	96.5%	
合計	10,719	100.0%	80.2%	3,707	100.0%	69.6%	979	90.3%		142,560	100.0%	89.1%	42,623	100.0%	83.0%	9,909	85.7%	

◎今月の売上報告社数……29社 (*前年同月の報告社数:29社) ◎売上金額の増減社数……前年同月との比較。その他とは増減なし、又は前年同月の報告がない場合

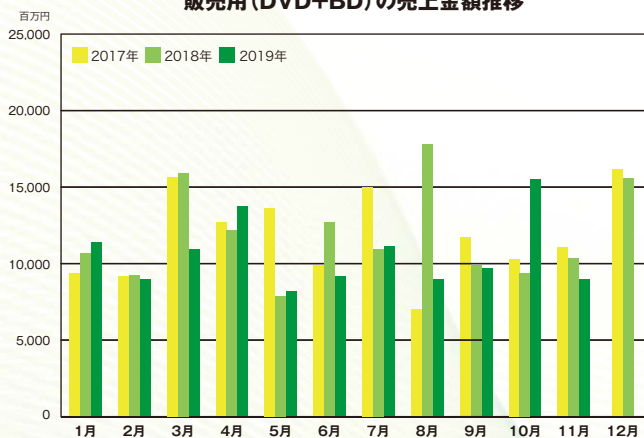
◎「レベニューシェアリング」用の作品数は新作数の合計値から除いている。ただし、「レベニューシェアリングのみ」でリリースされる作品数は合計値に加算されている。

◎雑誌やコミック、食玩などとして他商品に付帯されるビデオソフトの出荷について「特殊ルート」として本統計調査に加えている。 ◎累計値には、1月～6月の数字として、2019年上半期調査の数字を用いている。

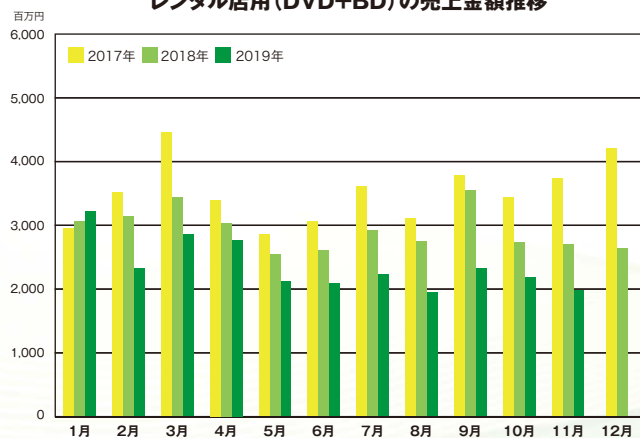
ビデオソフトの売上金額の前年比較 (DVD+BD)



販売用 (DVD+BD) の売上金額推移



レンタル店用 (DVD+BD) の売上金額推移



Index

月間売上統計(11月)	1	『11月3日はビデオの日』主な流通事業者の施策についての報告	11
月間売上統計グラフ資料	1	「映像ソフト市場規模及びユーザー動向調査2019」の調査内容について	12
吉村隆会長 2020年年頭所感	2	不正商品対策協議会	12
2020年新年賀詞交歓会を開催	3	コンテンツ海外流通促進機構	13
2020年西日本合同賀詞交歓会を開催	7	リレーエッセイ141	14
アンチリッピングトレーラー収録作品数	7	日誌に見る協会の動き	14
寄稿:CODAの2019年の活動を振り返る CODA代表理事・JVA専務理事 後藤健郎	8		



2020年 年頭所感

一般社団法人日本映像ソフト協会 会長 吉村 隆

新年あけましておめでとうございます。

昨年の6月より、島谷前会長から会長職を引き継ぎその重責を担うこととなりました。どうぞよろしくお願いいたします。

ご承知のとおり技術の発展・普及により映像ビジネスをめぐる環境は激しく変化しております。本年は5Gの本格サービスが開始され、映像視聴環境を含め、消費者の生活が大きく変わろうとしております。いつでもどこでも、ストレスなく、高画質で映像視聴が可能となる環境において、どのような映像視聴スタイルが確立されていくのでしょうか。新しい映像エンタテインメントの創造、提案など、我々のビジネスにも大きなチャンスだと捉えております。さらなる研究に励み、消費者ニーズを拡大喚起するような作品作りに一層励んでまいりたいと思います。

一方で、現状のマーケットは苦しい状況が続いております。昨年11月までのメーカーのパッケージソフトの出荷統計の状況は、前年と比べますと1割の減少となり、消費者のニーズは減少傾向にあります。一方のJVAメーカーの映像配信売上統計では11月までの実績で10パーセント以上の伸長となっており、映像配信に対するユーザーの関心は高くなってきている状況にあります。しかし映像配信売上は順調に市場を拡大しているとはいえ、我々メーカーの売上全体においてはまだ2割程度にとどまっており、メーカーとしては、フィジカルビジネスとデジタルビジネスのバランスや向き合い方に苦慮しているところでございます。それぞれの作品、ジャンル等によって、このバランスは異なるものですので、ニーズの強弱を感知し、販売促進、販売経路等、きめ細やかな対応をする努力が必要となっています。フィジカル、デジタルの両市場がバランスよく、そしてそれぞれからの最大の利益が得られるよう、継続して努力をすることが肝要と考えております。

こういった中、ビデオソフトの市場活性化キャンペーン「11月3日はビデオの日」も昨年で4回目となりました。製販一体となり、ビデオのお祭りを大いにアピールしようと始めたこのキャンペーンも、昨年は、日本コンパクトディスク・ビデオレンタル商業組合(CDVJ)、東京国際映画祭(TIFF)やDEGジャパンなど、周辺の組織・団体と共同開催するイベントなども行われ、大きな広がりを見せるようになってまいりました。

また同時に、回を重ねるごとに販売事業者の皆様とのタッグもより強固に組めるようになり、市場活性化キャンペーンが定着してきております。会員社の皆様、販売事業者の皆様、関係団体の皆様など、関係各所のご協力がなければ続けられない事業です。ご理解、ご協力に心より感謝申し上げます。

さて、インターネット社会が急激に世界を変革している昨今において、世界的にもより強力なネット上の海賊対策が急がれています。我々の健全なビジネスを拡大発展させていくためにも、本件は重要な課題の一つと捉えております。喫緊の課題として、leech site(海賊版誘導サイト)の問題については、当協会としてもここ数年来、力を入れてその対応策に努力を重ねてきております。この海賊版誘導サイトを違法とする著作権法の改正に向け、政府に対して働きかけを行っていているところですが、本年はいよいよ、その最終段階にはいつてきていると感じております。コンテンツ海外流通促進機構(CODA)をはじめ、関係諸団体と共に、力を緩めることなく、その成果に向けて邁進していく所存です。

最後に、ますますインターネットが情報社会の中心となかなかで、我々のビジネスにおいても様々な課題に直面することと思います。JVAでは、市場環境や消費者動向の把握などの調査の強化、法制度の整備や権利侵害への対策、共同プロモーションなど、個社ではできない取組みをとおして、最大限に会員各社のビジネスをアシストさせていただきたいと考えております。そのために、昨年秋より「JVAの今後の在り方について検討する会議」を設置し、JVAが、今後取組むべき事業、強化すべき事業について討議を重ねているところです。ビジネス環境が大きく変化していく中でJVAも大きく舵を切る時が来ているのかもしれませんが。設立49年を迎える当協会ですが、新時代に向け、新しいJVAの姿を模索しながら、業界の更なる発展のために活動をしてまいっている所存です。

激変するビジネス環境の中、会長の重責に就くこととなり難しい舵取りを担うこととなりました。会員各社の皆様をはじめ、関係官庁、関係団体等の皆様からのお力添えもいただきながら尽力してまいりたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2020年新年賀詞交歓会を開催

2020年1月8日(水)午後11時30分より、千代田区市ヶ谷の「アルカディア市ヶ谷(私学会館)」にて、一般社団法人日本映像ソフト協会新年賀詞交歓会を開催した。

当日は生憎の空模様となったが、会員社、関係官庁、関係団体、報道など、業界にかかわる皆様、460名の大勢の方々にご参集いただき盛大な会となった。

冒頭に、吉村隆会長(株)ポニーキャニオン 代表取締役社長)から挨拶があった。「5Gサービスが本格的に開始される本年は業界にとっては大きなチャンスの到来。新しい映像エンタテインメントを創造し、消費者ニーズを的確に捉え、市場拡大を喚起したい。」と新年の意気込みを語った。

続いて、ご来賓の経済産業省商務情報政策局大臣官房審議官(IT戦略担当)の小笠原陽一様、文化庁審議官の森孝之様、警察庁生活安全局生活経済対策管理官の山口寛峰様よりご挨拶を頂いた。続いてサプライズイベントとして、MPA(Motion Picture Association)アジア太平洋地域代表マイケル・エリス氏の退任に伴い、(一社)日本映像ソフト協会(JVA)、(一社)コンテンツ海外流通促進機構(CODA)、不正商品対策協議会(ACA)の3団体から同氏に対する感謝盾の贈呈式を行った。同氏には、1999年の就任から2020年1月の退任までの長きにわたり、米国、ヨーロッパそしてアジア太平洋地域における我が国のコンテンツの海賊版対策及び流通促進に関し多大なるご尽力をいただいた。この功績を讃えて、吉村隆JVA会長(兼ACA

代表幹事)から感謝盾を、多田憲之CODA代表理事(東映(株)代表取締役社長)から花束を贈呈した。

続いて、内閣府知的財産戦略推進事務局次長の渡邊厚夫様よりご挨拶と乾杯のご発声をいただき、賑々しく開宴した。

中締めには、井上伸一郎副会長(株)KADOKAWA 代表取締役副社長執行役員)よりご来場御礼の挨拶があり、閉宴となった。



経済産業省 商務情報政策局 大臣官房審議官(IT戦略担当) 小笠原 陽一 様



明けましておめでとうございます。日頃より経済産業省行政に種々ご協力を賜り、この場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。

さて、2020年になりました。今年は東京オリンピック・パラリンピックの年であり、世界が日本に注目し、実際に多くの外国の方が日本を訪れることが期待されます。

本年は、そうした方々に、日本のコンテンツを発信するまたとない機会となります。また、5Gやブロックチェーンなど新たな技術の実装により、コンテンツ流通のビジネス環境が大きく変わっていく年になると思われます。

先程会長のお話にもございましたが、こうした環境の中で海賊版対策が大きな課題であることは言うまでもありません。昨年のインターネット上の海賊版に対する総合的な対策が策定されて以来、政府では、まずはできることを確実に実現するという観点で取り組んでまいりました。ご案内のとおり、昨年は「漫画村」の元経営者の逮捕がございました。ただ、インターネット環境やデジタル技術の向上が進んでいく中で、海賊版対策の必要性が尽きることはないかと思います。経済産業省としてもインターネット上の広告出稿の抑止といったことを始めとして、引き続きできる取組みを、関係省庁と連携して進めていきたいと考えております。

今、申し上げた「海賊版対策」と併せて、「コンテンツの充実」ということが車の両輪であることは言うまでもないこととございます。経産省としては、海外展開、AR・VRや4K・8Kなどの先進的なデジタル技術を活用したコンテンツ制作を行う方に、J-LOD補助金という形でご支援をしてまいりました。そして、こういったコンテンツ制作の全ての礎は、制作者の方々、「人」にあります。こうした方々の働く環境、そしてこうした方々が制作や配信をされるにあたっての契約の改善も進めていかなければならないと思っております。官邸の中に、コンテンツのクリエイターの方々の働き方、契約環境等の改善を進めているワーキンググループがございまして。経産省としてはそうした中にも参加し、クリエイターの方々の働く環境の整備のお手伝いをしたいと考えております。

最後になりますが、本日お集りの方々、映像ソフト、映像コンテンツに携わるの方々にとって、より一層よい年でありますことを祈念いたしまして、簡単ではございますが新年の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



◀新年のご挨拶をする吉村会長
▼460名の方々にご参集いただいた



皆様、新年あけましておめでとうございます。本日は、一般社団法人日本映像ソフト協会の賀詞交歓会がこの様に盛大に開催されますことを、心からお喜びを申し上げたいと存じます。日本映像ソフト協会に置かれましては映像ソフト業界の中核的な団体として映像ソフト産業の発展のために、海賊版対策、円滑な流通、著作権の保護意識の普及啓発などに熱心に取り組んでいただいております。協会、そして加盟会員各社の方々のご尽力に対しましてこの場をお借りしまして深く敬意を表し、感謝を申し上げたいと存じます。

文化庁では、著作権法等について、とりわけ情報通信技術の高度化やネットワークの普及等に伴う著作権法上の課題について検討を進めているところですが、先にお話のありました海賊版対策が大きな課題でございます。インターネット上の海賊版による被害が、創作者、クリエイターの創作活動にフリーライド(free ride)し、対価回収の機会を奪う極めて悪質な行為であり、実効性のある対策を講じていくことが喫緊の課題であると認識しております。皆様ご存知のとおり、この問題に関しましては、leechサイト対策や、侵害コンテンツのダウンロード違法化といったことを含む、著作権法上の整備について検討をしておりますが、昨年、とりわけ侵害コンテンツのダウンロード違法化について、国民の皆様から様々な懸念が示されたことを重く受け止め、慎重に検討を進めております。国民の皆様に向けたアンケートやパブリックコメントを実施して様々な懸念を把握したうえで、新たに有識者の方を構成員とする検討会を立ち上げて、この場において海賊版対策の実効性をしっかりと確保しながら、一方で国民の皆様の情報収集に対する萎縮を招かないよう、両者の利用性をバランスよく成り立たせるような適切な制度設計を進めているところでございます。今後、文化庁といたしましては、検討結果を踏まえてleechサイト対策を含む法整備を速やか

文化庁 審議官 森 孝之 様



に実施すべく検討準備を進めてまいりたいと考えています。

また、クリエイターへしっかりと対価を還元していくという観点より、文化庁において私的録音録画補償金制度も大きな課題でございます。私的録音録画に係わる機器やサービスの発展に伴い、どのように対応していくのか、なかなか関係者の皆様方の意見の調整に時間を要している難しい課題ではございますが、この問題についてもできるだけ早く方向性を見出していけるよう取り組んで参りたいと考えております。

今年はいよいよ、東京オリンピック・パラリンピックが開催されるわけでございますが、いわばスポーツの祭典と同時に文化の祭典でもあり、日本の素晴らしい文化の魅力を国内外に発信をして、多くの皆様に知っていただく、またとない機会になります。また、将来に向けてのレガシーを構築していく絶好の機会であると思っています。文化庁では、こうした機会を捉え、先を見据えながら、観光や街づくりなどの分野とも連携を取り、日本の文化の魅力を国内外に発信をするための様々な文化プログラムをはじめとした施策に取り組んでまいりたいと思います。

こうした、著作権制度の整備や文化の振興といった施策を進めていくうえでは、当然のことながら関係の皆様のご支援、ご協力がなくてはならないものでございます。この場をお借りして、是非、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願いを申し上げたいと存じます。

結びとなりますが、本日ご参加の皆様のご今年一年のご健勝とご活躍、そして日本映像ソフト協会のご発展を心より祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新年賀詞交歓会



▲感謝盾を贈られ挨拶するM・エリス氏



◀M・エリス氏を紹介する
後藤専務理事



▶左から、後藤専務理事、
多田CODA代表理事、
M・エリス氏、吉村会長



皆様、新年あけましておめでとうございます。本日は一般社団法人日本映像ソフト協会の新年賀詞交歓会が、かくも盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。また、本日も集りの皆様におかれましても平素から知的財産権の保護、不正商品排除のためご尽力いただいていることに対し、心から敬意を表する次第でございます。

ご承知のとおり、インターネットを利用した公衆送信権侵害事犯や海賊版ソフト等の販売事犯など、知的財産権の侵害事犯は依然として後を絶たない状況にあるところでございます。警察としては、引き続き権利者の皆様の協力を得ながら取締りを推進して参る所存でございます。

警察庁 生活安全局 生活経済対策管理官 山口 寛峰 様



こうしたなか、特に貴協会には当庁の呼びかけにより設立されました、不正商品対策協議会の事務局を担っていただくなど知的財産保護のための諸活動を推進していただいているところでございます。本年も引き続き、警察活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、本日も集りの皆様方のご多幸と益々のご発展を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い致します。





▲毎年恒例の理事・監事によるお出迎え

▼「乾杯!」の音が大きく響いた



来賓あいさつ・乾杯

内閣府 知的財産戦略推進事務局
次長
渡邊 厚夫 様

皆様、新年あけましておめでとうございます。本日この様に盛大な新年賀詞交歓会が開催されましたことをお喜び申し上げます。

昨今のデジタル社会、データ駆動型社会はめまぐるしい急速な変化のもとに進んでおります。この様な時代だからこそ知的財産の価値が非常に重要になってきていると認識をしております。その中で、いくつかの取組みをご紹介させていただきます。

まずは、「クールジャパン」の振興でございます。昨年の秋に私も「クールジャパン戦略」を初めて策定いたしました。クールジャパンのお客様は外国の方々です。日本には全国各地に世界に誇れる地域資源が沢山あり、これが少しでも海外の方の目に触れて、ビジネスに結び付くとともに、何よりも日本のファンを増やす、そしてソフトパワーが高まるといったことを目的に推進しております。今年は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、5年後には大阪での万博の開催が予定されております。益々外国の方が日本へ来られる機会が多くなると思います。こういったチャンスに、是非、皆様方には映像ソフトを通じて、存分に日本の魅力を発信していただければと期待をしております。

また、コンテンツ分野につきましては、先程来、吉村会長やMPAマイケル・エリス様など皆様のご尽力がありましたが、海賊版対

策といったものが重要だと受け止めております。クリエイターの方々への対価がしっかりと還元されるようになってこそ、コンテンツ分野を支える若い人材が持続的に出てくる、そういう環境を作っていく必要があると思っております。昨年10月に、ここにお集まりの関係省庁とも連携をいたしまして、海賊版の総合対策を公表いたしました。これに基づいてしっかり政府の方で取り組みを進めて参りたいと思っております。

また、本日は映画関係の方々もいらっしゃると思いますが、特に外国映画の日本でのロケーション撮影の誘致を積極的に進めてまいりたいと思っております。日本が撮影の舞台になることで、日本の発信に繋がればという思いでおります。関係省庁で連携を進めて、インセンティブや日本での撮影に係る様々な手続きの円滑化等についてしっかり取り組んでいきたいと思っております。

それでは、日本映像ソフト協会の皆様、ここにお集まりの関係の方々の今後のご発展とご健勝を祈念いたしまして乾杯をさせていただきます。乾杯!



中締め

皆様、本日はたくさんのご来場をいただき有難うございます。お陰様で、今年のこの会もたいへん盛り上がりしました。

ビデオソフトを巡る状況は、冒頭の吉村会長のお話にありまして、非常に厳しい状況が続いております。しかし、日本においてはまだまだ充分大きな市場が形成されております。我々としては、この市場を守りつつ、さらに新たなフェーズが築けないものか、みつけれないものか、ということ今年一年かけて探していこうと思っております。吉村会長を支えまして、会員一同、理事一同、頑張りたいと思っております。

また本日は、関係各省庁の皆様、ご来場ありがとうございました。特に海賊版対策などで皆様から力強いお言葉をいただき、我々一同、心強い味方を得た思いでございます。海賊版対策については、今年も我々の大きなテーマとして取り組んでまいります。

5Gにも関わってまいります、今年の夏に大きなイベントであ

日本映像ソフト協会
副会長
井上 伸一郎

る東京オリンピック・パラリンピックがあります。一般の人々がテレビやスマホで映像に触れる機会が増えると思いますが、多くの方は、ここで初めて5Gの体験をされると思います。5Gの快適な環境に触れることによって、今度はビデオを観てみよう、映画を観てみよう、ライブ映像を観てみよう、そういった流れが生まれてくることを期待しております。新しい流れをピンチと思わずチャンスに変えるべく、一同努力してまいります。

今年もパッケージ業界、映像ソフト業界一丸となって盛り上げていきたいと思っておりますので、是非よろしく願いたします。本日は誠にありがとうございました。



2020年 西日本合同賀詞交歓会を開催

1月16日(木)午後12時30分より、ホテルメルパルクOSAKA(大阪市淀川区)にて、JVA関西地区連絡協議会、中部地区連絡協議会共同主催による、西日本合同賀詞交歓会を開催した。メーカー、流通、ショップ等の西日本の映像ソフト業界関係者、約30名が一堂に会し、新年を共に祝った。

まず初めに、後藤専務理事が年頭の挨拶と乾杯の発声を行った。「市場は厳しい状況が続いているが、我が国の映像ビジネスにパッケージは欠かせない存在。今年5Gの本格サービスが開始されると、映像を楽しむ環境も大きく変わると予想される。この環境の変化に対して、JVAは何かができるのかを考えながら業界のために頑張っていく所存です。」と述べた。

最後に、北川忠司マーケティング委員会副委員長(東映㈱ビデオ営業部長代理兼営業室大阪営業所長)より、「パッケージについては厳しい市況にあるが、“ピンチの後にはチャンスあり”

と言われるように、目の前のことに前向きに取り組みながらチャンスをつかんでいきましょう。」と中締め挨拶があり一本締めで閉宴した。

▼後藤専務理事の音頭で乾杯



▼挨拶をする後藤JVA専務理事(左)、東映㈱北川氏



▼西日本の業界関係者が一堂に会し、新年を祝った



アンチリッピングキャンペーン

アンチリッピングトレーラー収録作品数

当協会は、「リッピング行為により私的複製したものをアップロードすること」、「リッピングによってコピーされたものをダウンロードすること」の違法性を広く消費者に訴えるための啓発キャンペーンを行っている。

その一環として、田中光氏の漫画「サラリーマン山崎シゲル」のキャラクターがアンチリッピングを訴えかけるオリジナル動画を制作し、会員各社のレンタル商品にトレーラーとして収録する『アンチリッピングキャンペーン』を実施している。

この進捗状況を把握するため、四半期ごとに収録作品を記録している。2019年10月から12月までの収録作品数は107作品、これまでに延べ2464作品に収録された。(未回答有)

【参加社】(17社)アスミック・エース(株)、(株)アニプレックス、エイベックス・ピクチャーズ(株)、(株)KADOKAWA、ギャガ(株)、キングレコード(株)、松竹(株)、東映ビデオ(株)、東宝(株)、20世紀フォックスホームエンターテインメントジャパン(株)、日活(株)、(株)博報堂DYミュージック&ピクチャーズ、(株)バップ、(株)ハビネット、(株)バンダイナムコエンターテインメント、(株)ポニーキャニオン、ワーナー ブラザース ジャパン(同)



CODAの2019年の活動を振り返る

一般社団法人コンテンツ海外流通促進機構 代表理事(一般社団法人日本映像ソフト協会 専務理事) 後藤 健郎

令和最初の新年を迎えました。本年はオリンピックイヤーとして、国際交流が一層と盛んになるとともに、5GやAI技術の実務運用に拍車がかかる年となりそうです。一方で、国内外を問わずコンテンツ侵害の脅威は増大しており、我々のコンテンツビジネスあるいは日本文化においても、その発展の大きな阻害要因となっています。その対策が一層、重要視されている中であって、JVAもその一員として参加しているCODA(一般社団法人コンテンツ海外流通促進機構)の昨年の活動を振り返りながら、海賊対策の現状と課題について整理してみたいと思います。

CODAは2002年に日本コンテンツの海外における正規流通の促進と知的財産の保護を目的に文化庁と経済産業省の支援のもと設立された。以来今日まで、音楽、映画、アニメ、放送番組、ゲーム等のコンテンツホルダー(正会員31社、団体会員12団体、賛助会員8社・4団体 2020年1月現在)の皆様と一緒に、

- ① 侵害対策として、共同エンフォースメントの実施
- ② 海外の取締執行機関との連携促進
- ③ 国内外の政府機関や関係団体との連携促進
- ④ 広報啓発活動として、国内外の消費者向け啓発イベント等の開催
- ⑤ 正規流通に向けたビジネスマッチング・セミナーの開催など海賊版対策を中心に種々の取組みを行ってきた。

CODAの2019年の1年間の活動を以下にまとめた。

【1月】台湾で大規模なISD (Illicit Streaming Device/不正ストリーミング視聴機器) 販売グループの刑事摘発

台湾電信偵査大隊及び刑事警察大隊等は、捜査員128名を動員し、ISD販売グループを一斉摘発した。台北市、台中市、台南市など複数箇所ですれど捜索が行われ、逮捕者11名、ISD312台、ディスク40台、サーバ50台、衛星受信機300台等が押収された。警察による捜査は、現在も継続中であり事件の全容解明が期待される。

海外の日本人向けタウン情報誌等で、「日本の地上波、BS、CS全42局が無料で視聴できます」などを謳い文句にしたISD販売の広告記事をご覧になった方も多いことであろう。今回の摘発は、これら広告を端緒にCODAの委託を受けた「IFACT台湾」の内偵調査に基づき、日本の放送事業者が被害を訴えていたものである。

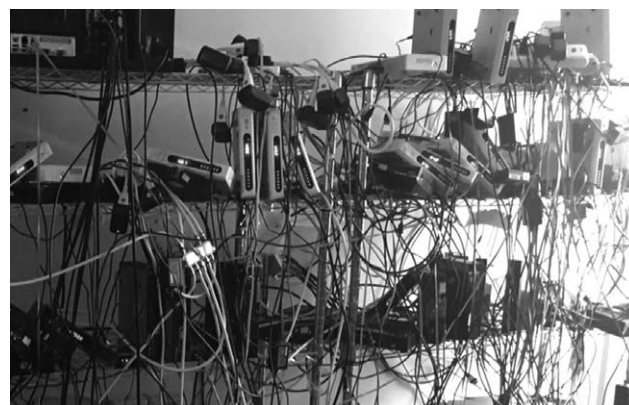
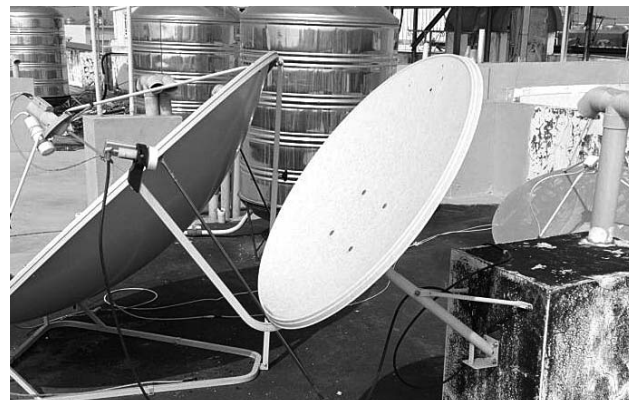
現在これらISDは、欧州を中心に欧米の放送事業者の間で大きな脅威となっている。MPA(アメリカ映画協会)では、ISD問題を「Piracy3.0」(Piracy1.0はP2P問題、Piracy2.0はストリーミング問題)と表現し、最重要タスクとして位置づけ、様々なアプローチにより対策を講じている。

日本国内でも、Eコマースなどを通じて、「アンブロックテック(世界の1,000チャンネルが視聴可能で1万8千円程度)」などが

売買されている。東京オリンピック・パラリンピック開催や日本の放送コンテンツが世界から注目されつつあるなか、同時再送信で世界の放送番組が簡単にストレスなく視聴できる、これらISDの流通が問題となってくるであろう。

現在のところ日本コンテンツに係るISDの刑事摘発は、台湾のみとなっており、2018年の2事件に引き続き今回で3件目となっている。

▼台湾の摘発において押収されたパラボラアンテナ等



【3月】leechサイト規制の法案見送りに

3月自民党において、著作権を侵害する静止画のダウンロード違法化法案の国会提出が見送られたことを受け、残念ながらleechサイト規制を含む著作権法改正案の提出も見送られた。leechサイト規制については、CODAが2016年2月「知財戦略本部・次世代知財システム検討委員会」において、みなし侵害による法制化を提案して以来、文化審議会著作権分科

会法制・基本問題小委員会で審議が重ねられてきた。2019年1月にまとめられた同小委員会の報告書では、法制化に向けた方向性が示されていただけに誠に残念な結果であった。

11月文化庁に「侵害コンテンツのダウンロード違法化の制度設計に関する検討会」が新たに設置・開催された。これにより関係者の叡智をとりまとめ、2020年の通常国会で一日も早く著作権法改正案が提出され、成立することを願うばかりである。

【3月～】CODA事務局の体制強化

2019年は、CODA事務局の体制強化を実現することができた。3月新進気鋭の弁護士の高瀬瞳さんを知的財産保護センター長に迎えた。6月は通常総会において、島谷能成代表理事、永野行雄常務理事が任期満了に伴い退任、新たに東映(株)の多田憲之社長が代表理事に就任。7月には東宝(株)から中国出身のエリート、張静さんが加わり、10月には理事として出版業界を代表して(株)集英社の堀内丸恵社長に就任いただいた。出版業界が頭を悩ませるマンガ海賊版サイト問題の対策に、CODAとして一層深くかかわっていくこととなろう。そして11月には東宝(株)から事務局次長として須藤哲史さんを迎えた。

【4月】CODA削除センター人的モニタリングを強化

CODAが運営する「CODA自動コンテンツ監視・削除センター」では、従来のフィンガープリント技術による自動照合に対して、「枠付き動画」などのアップロードにより自動照合が作為的に回避されるケースの頻発やYoutube対策の強化などを目的に、人的モニタリングを補強するべく人員を4名増員し全8名体制とした。増員による強化の結果、侵害動画の検出数はフィンガープリントの自動照合による検出数の約30倍の174,568URL(11月30日現在)となっている。

人的モニタリングは、AI技術が進展するなか一見時代に逆行する古い手法のように感じられる。しかし、枠付き動画をはじめあの手この手で、映像と音のフィンガープリントの照合を

すり抜け、ほぼ同時再送信でアップされる違法動画に対処するには、やはり人間の目でなければ瞬時かつ正確に侵害動画を特定できないという実情にある。

【6月】上海市日本人向け海賊版大量販売店の完全廃業

2018年12月CODAの申立てにより、上海市公安局が刑事摘発した、「Movie Star 星之影」、「Movie Star 星空広場」、「渋谷タワレコ」の3店舗は、その後も営業が継続されていた。しかし、4月から6月にかけて中国全土で実施された「全国反ポルノ製品・違法出版物の強化取締期間」において、上海市文化市場行政執法総隊は同店舗らの行政摘発を徹底的に行い、全店の完全廃業へ到った。

「渋谷タワレコ」は2011年から2017年の間に35回にわたり行政摘発が行われた。しかし、店長を交代するなどして営業を続けてきたが、9年間にわたってやっと完全廃業に追い込むことに成功した。これにより、北京、上海など中国の大都市で日本コンテンツの海賊版を大々的に販売する店舗は存在しなくなった。

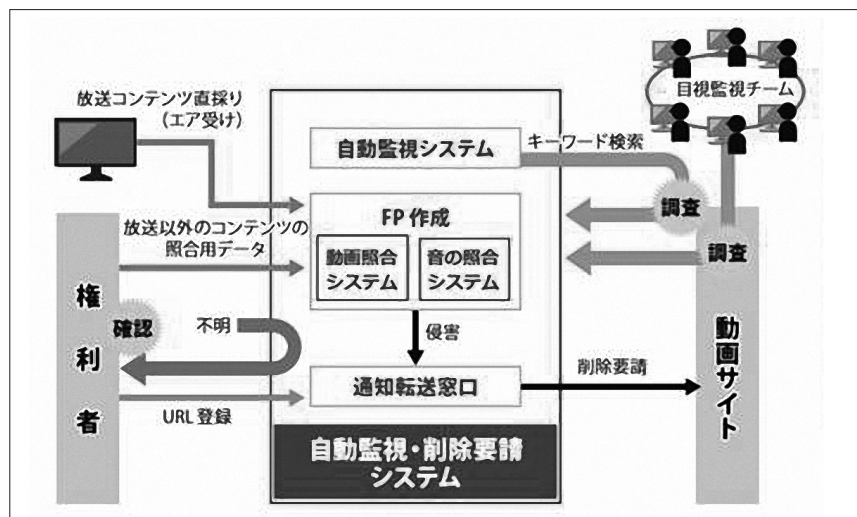
▼「渋谷タワレコ」などの海賊版販売店



【7月、9月】検索サイト対策及び 広告対策に関する会議設置

海賊版サイト撲滅に向けた間接的な対策として、検索サイト対策及び広告対策を具体的に進めていくことを目的に、7月、文化庁の支援のもと、Googleをはじめ関係者が集まり、「著作権侵害コンテンツの検索結果表示に関する検討会」が発足した。Googleとの間では、海賊版サイトのトップページの検索結果からの削除に関する成果の検証などを進め、恒常化を図っていく。

▼削除センター概念図



また、9月には経済産業省支援のもと、広告主、広告代理店の団体とCODAによる「海賊版サイトへの広告出稿抑制に関する合同会議」が発足した。権利者及びCODAが海賊版サイトへの削除要請に基づき作成した「ブラックリスト(日本版IWL)」を広告団体等と情報共有することにより、会員社へ海賊版サイトへの広告掲載の抑止活動の恒常化を図っていく。

両会議を通じて、関係者とのさらなる連携を強化し、諸課題の解決に向けて対策の深掘りを進めていく。

【9月】漫画村運営者逮捕される

9月25日、漫画村の運営者とされる星野路実容疑者がフィリピンから日本に強制送還され福岡県警に逮捕された。同人は7月にフィリピン空港で入国管理局によって身柄を拘束されていた。今回の逮捕は、わが国の著作権法被疑事件における国際連携のリーディングケースとなる。オンライン上で国境を問うことなくますます深刻化かつ潜在化する海賊版サイト問題に対して、国際連携の枠組みはいま最も重要視されている。ICPO(国際刑事警察機構)や刑事共助条約に基づく捜査事項照会などが存在するが、著作権侵害の場合、なかなかその具体的運用までに到らないケースが多かった。

今回のケースは、警察庁そして福岡県警はじめ合同捜査本部の地道な裏付け捜査の賜物であり、心より敬意を表したい。今後の捜査により、漫画村の海賊版ソースの入手ルートや広告の収益システムなど、事件の全容解明がなされることを期待したい。

【10月】インターネット上の海賊版に対する総合対策メニューの発表

2018年の6月から10月にかけて知的財産戦略本部では「インターネット上の海賊版対策に関する検討会議」が9回に渡り開催された。このなかで、サイトブロッキングの導入に関しては、反対派そして賛成派の溝は埋まらず合意することはできなかった。しかし、検討会議のなかで合意した「できることから直ちに実施する対策」などを取りまとめた総合対策について、2019年10月政府により「総合対策メニュー」として発表された。CODAも数多くの対策に関係しており、今後さらなる具体化に向けて種々尽力していきたい。

▼「総合対策メニュー」(知的財産戦略本部のHPを参考に作成)

①できることから直ちに実施	著作権教育・意識啓発
	正規版の流通促進
	海賊版サイト対策の中心となる組織の設置
	国際連携・国際執行の強化
	検索サイト対策
	海賊版サイトへの広告出稿の抑制
	フィルタリング
②導入・法案提出に向けて準備	アクセス警告方式(検討)
	アクセス警告方式(導入)
	リーチサイト対策
	著作権を侵害する静止画(書籍)のダウンロード違法化
③他の取組の効果や被害状況等を見ながら検討	ブロッキング

【12月】MAGP新体制

Manga Anime Guardians Project(MAGP)は、2014年7月に経済産業省の支援のもと設立されて以来、毎年マンガ・アニメに関する侵害コンテンツの大規模削除等を行ってきた。9月に事務局長が辞任したことに伴い、10月に新体制として「MAGP幹事会」を設置、12月の新制「MAGP」の初会合において、集英社の北輝幸常務取締役役に会長に就任いただくとともに、新事務局長にCODAの埴崎事務局長が就任した。今年度事業として、マンガ・アニメに関する大規模削除の実施、広報啓発マンガの製作、海賊版対策セミナーの開催などについて承認した。

【12月】中国との新時代到来の兆し



▲MOU締結式

米中経済戦争、5G、AI時代の本格的スタート、習近平国家主席の2020年春の国賓来日予定などから、日中新時代の幕開けを予感させるかのように、中国の関係政府機関や関係組織からCODAに対して積極的なアプローチをいただいた。3月に中国文化部の直轄国営企業である「中国文化伝媒集团有限公司」、9月は国家版權局がオンライン上の著作権監視センターとして唯一指定する「12426版權監測中心」を運営する「First Brave」、そして12月には世界最大の携帯通信事業者であるチャイナモバイルの100%子会社である配信事業者「MIGU」、これら3社との間で、知的財産の保護と正規流通促進を目的としたMOUを締結した。

3社ともに日中におけるビジネス展開に積極的であり、2020年からの共同事業として、共同セミナーやビジネスマッチングなどを連携して開催する予定である。

2020年、世界そして日本のコンテンツホルダーにとって、どのような年となるのでしょうか。CODAは、leechサイト違法化の暁には、わが国の消費者に対して改正法に関する広報啓発の充実をはかるとともに、悪質なleechサイトに対する可罰性の裏付けを進め、警察庁はじめ都道府県警察と丁寧に連携して、効果・効率的な著作権法被疑事件の実現を目指していく。

『11月3日はビデオの日』主な流通事業者の施策についての報告

2019年市場活性化施策の「11月3日はビデオの日 おうちでエンタメ!」各キャンペーンが12月31日で終了した(プレミアムキャンペーンの申込締切は1月10日)。この期間、各流通

事業者の法人様も独自企画や店頭告知などの販促プロモーションを展開して、市場活性化にご協力いただいた。その一例を紹介する。



©2019-2020 Amazon.com, Inc. All Rights Reserved
▲Amazon/「ビデオの日」セール展開



©Rakuten, Inc.
▲楽天ブックス/独自キャンペーン展開



▲WonderGOO&新星堂/リアル店舗独自販促キャンペーン展開



◀アニメイト/「ビデオの日」×アニメイト映像ソフト大感謝祭を展開、店舗入口では「ビデオの日」CMもOA



▲ゲオ/A1ポスター設置で「プレミアムキャンペーン」を告知



©TSUTAYA Co., Ltd.
▲TSUTAYA/オープンキャンペーン協賛募ページ

▶フネネットショッピング/独自キャンペーン展開



© Seven Net Shopping Co., Ltd. All Rights Reserved.
© Seven & i Holdings Co., Ltd. All Rights Reserved.

市場活性化キャンペーンも4年目を迎え、本年度も各法人の“強み”を活かした展開が実施された。リアル店舗での販促に強い法人は、店内での告知に注力、Webに注力し

ている法人では、SNSやリアルイベント(試写会)を複合した独自展開を行うなど、業界一丸となって市場活性化を推進した。

「映像ソフト市場規模及びユーザー動向調査2019」の調査内容について

前号既報のとおり、マーケット調査委員会(森口和則委員長 松竹(株))は、本年度もデジタル・エンターテインメント・グループ・ジャパン(DEGジャパン)と共同で『映像ソフト市場規模及びユーザー動向調査』を実施する。

本調査は、一般消費者(日本在住の16歳～69歳の男女)に対するインターネット調査により、昨年1年間(1月～12月)のビデオソフト(DVD、ブルーレイ、Ultra HD ブルーレイ)の購入とレンタルの消費動向、および有料動画配信の利用状況について調査するもので、消費者レベルでのパッケージ映像ソフト市場と有料動画配信市場の規模を推定するものである。

本調査に有料動画配信を調査の対象に加えたのは2013年からであり、今回で7年目となるが、それぞれの配信事業者がサービス展開を推し進める中、ユーザーのライフスタイルに動画配信が根付いてきている様子が捉えられてきた。さらに今年は、5Gのサービスが本格的に開始されようとしており、ネット環境が飛躍的に向上する中で動画配信への消費者ニーズがますます高まるものと思われる。当委員会では、こういった状況を踏まえながら、本調査結果が今後のマーケット動向の予測に少しでも寄与できるものとなるよう、今回の調査内容についての見直しを行った。

本年度調査についての大きな変更点は以下のとおりとなっている。

●昨今のマーケットの情勢から、調査の比重をパッケージメディアから動画配信にシフトする必要があるとし、配信ユーザーの動向を調査する「オプション調査」のサンプル数を、これまでの300サンプルから1300サンプルに増加。SVOD、TVOD、ESTユーザーの動向の深堀りを目指すこととした。(セル、レンタル、動画配信の利用率や規模を測る「一般調査」はこれまで通りの1500サンプル)

●SVODで何のジャンルがどれくらい視聴されているのかを測るため、SVODユーザーに対し、ジャンルごとに年間の視聴本数を尋ねる設問を追加した。

●視聴方法を問わず、接触率の高いジャンル別にユーザーを分類し(洋画ファン、アニメファン、海ドラファン…のように)、それぞれのユーザーのパッケージ、配信の利用の動向を明らかにする。

●映像市場の長期的観点から無視できない要因となりそうな「5G」について、認知度を経年で調査していく。

調査は1月に実施、結果発表は5月の予定である。

不正商品対策協議会 ACA

『ほんと?ホント!フェア in 岡山 ~海賊版は買わない!海賊版サイトは見ない! 偽ブランド・偽キャラクターグッズは買わない!~』を開催

不正商品対策協議会(ACA)は10月27日(日)に『ほんと?ホント!フェア in 岡山 ~海賊版は買わない!偽ブランド・偽キャラクターグッズは買わない!海賊版サイトは見ない!~』を、アリオ倉敷(倉敷市)にて開催した。「晴れの国おかやま」に相応しい、清々しく晴れ渡った秋空に恵まれた会場には、家族連れを中心に約2,300人が来場した。

会場に設けられた屋外ステージでは、岡山県立倉敷中央高等学校吹奏楽部のみなさんによるミニコンサートを始め、バルーン世界選手権優勝者「メリィちゃん」のバルーンアートショー、実の父娘コンビとして人気の「完熟フレッシュ」によるお笑いライブといったバラエティに富んだステージイベントが繰り広げられ、来場者を楽しませた。

その他にも、岡山県警察のシンボルマスコット「ももくん」や「ももかちゃん」と触れ合える写真撮影会も行われ、会場は大きな賑わいを見せた。

来場者は、知的財産権に関する問題が出題される〇×クイズ大会や、約100点にも上るホンモノ・ニセモノの比較展示などを通じて、知的財産の保護と不正商品の排除の大切さについて

楽しく学んでいた。不正商品対策協議会では、同様の催しを年間で6回開催した。

◇主催 不正商品対策協議会(ACA)

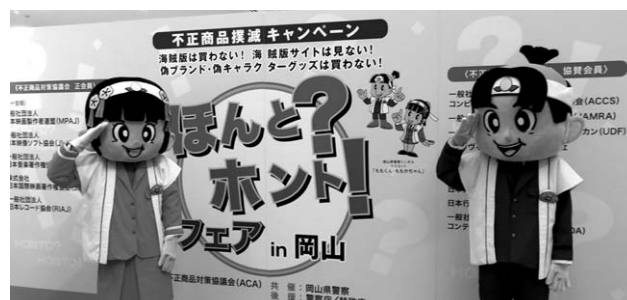
◇共催 岡山県警察

◇後援 警察庁/特許庁

◇協力 国際知的財産保護フォーラム(IIPPF)

詳細は不正商品対策協議会ホームページまで
(<http://www.aca.gr.jp/>)

(執筆:ACA事務局)



中国との新たな連携関係

2020年春、中国の習近平国家主席が国賓として来日を予定するなど、昨今の日中関係は大きく変化し、新たな局面を迎えている。

コンテンツ業界においても、海賊版ばかりであった中国市場は大きく変貌し、いまや世界最大の市場へと成長している。5G・AI時代の最先端に行く中国では、その環境変化を捉えて正規ライセンスの取得を希望する配信事業者が数多く存在するとともに、日本コンテンツに熱い視線を送っている。

一方で、正規配信の障壁となる海賊版対策についても積極的に取り組んでおり、中国の関係政府機関や関係組織からCODAに対する問い合わせも増えている。

10頁記事中でも紹介したとおり、2019年3月中国文化観光部直轄の国営企業である中国文化伝媒集团有限公司と日本コンテンツの中国における流通促進・権利保護を目的とした「中伝新文創（IP）プラットフォーム」に関する覚書を締結したが、その後さらに2社との間でMOUを締結した。今後は、共同セミナーやビジネスマッチングの開催を予定している。

■MIGU社とMOUを締結

2019年12月12日、CODAは、世界最大のモバイル通信事業者China Mobile Communications Corporation (中国移动通信)の100%子会社である配信事業者MIGU社との間で、日本コンテンツの流通促進、著作権保護及びコンテンツの不正流通の排除を目的としたMOUを締結した。

MIGU社は、MIGU音楽（咪咕音楽）、MIGUビデオ（咪咕視訊）、MIGU書籍（咪咕数媒）、MIGUゲーム（咪咕互娛）、MIGUアニメ（咪咕動漫）の5つの子会社を統括する配信事業者であり、CODAは、今回のMIGU社とのMOUに先駆け、2019年2月27日にMIGUビデオ（咪咕視訊）と正規

流通に関するMOUを締結している。

12月12日に北京のMIGU社で開催されたMOU調印式では、MIGU社の刘昕（Sean Liu）CEOとCODA後藤代表理事がMOUに署名を行った。

これを受けCODAは、この度、MIGU社の幹部を東京にお迎えし、ビジネスマッチングセミナーを開催することが決定した。MIGU社としては、中国における日本コンテンツの正規配信のビジネス展開を希望されており、当日は同社の会社説明のほか、参加者との交流の時間も設ける予定である。

■FirstBrave社とMOUを締結

CODAは、中国国家版權局がオンライン上の著作権監視センターとして唯一指定する「12426版權監測中心」を運営するFirstBrave社との間で、日中の著作権保護及びコンテンツの不正流通の排除を目的としたMOUを締結した。

2019年9月10日、文化庁と国家版權局の主催により東京で開催された「日中著作権セミナー」において、FirstBrave社の吳冠勇CEOがオンライン侵害の状況や対策に関する講演を行った。セミナーの閉会後には、吳冠勇氏とCODAの後藤代表理事による、MOUの締結が行われた。

同社の違法アップロード調査技術の高さは、国家版權局も高く評価しており、今後、日本からでは権利行使が難しい悪質な海賊版サイトへの対策などを同社と連携して実施していく予定である。

さらにこの3月、FirstBrave社の幹部及び技術者を東京にお迎えし、侵害対策に関するセミナーを開催することも決定しており、近くCODAのWebサイト等を通じて案内を行う予定。

（執筆：CODA事務局）

▼MIGU社とのMOU締結時の様子



▼上海のFirstBrave社訪問時の様子





Relay essay

vol.141

栗橋 三木也 氏(株)KADOKAWA 映像事業局 統括部長 映像営業部 部長 編成部 部長)からのご紹介

森口 和則 氏(松竹(株) メディア事業部部長)

「映画の原体験!!」

仕事の会食や仲間との飲み会で、「一番好きな映画は何か?」という話題になることが皆様にもあるかと思います。一方で、「記憶に残っている一番古い映画は何か?」と聞かれたら、皆さんはどの作品を答えるでしょうか。

私は、小学校3年生の時に鑑賞したアニメーション「チリンの鈴」が、その強烈な、そして絶望的なエンディングと共に、言うなればトラウマとなって記憶の奥底にこびり付いて離れません。

1978年にサンリオが製作し、日本ヘラルドが配給した作品です。当時アニメは2本立てが主流で、この作品も「親子ねずみの不思議な旅」と併映されていたようですが、こちらの方は全く覚えておりません。それほどに、「チリンの鈴」が強烈でした。

ご存じない方の為に、簡単に作品を紹介致します。原作は、「アンパンマン」で有名な“やなせたかし”さん。波多正美監督の47分間のアニメです。では、ストーリーを簡単に・・・。

“牧場で平和に暮らしていた子羊のチリンは、ある嵐の夜、母羊を目の前でオオカミのウォーに殺されてしまいます。母羊の復讐を心に誓ったチリンは、仇のウォーに弟子入りし、復讐の機会をうかがい続けます。当初は、チリンを相手にしていなかったウォーですが、決してあきらめないチリンを認め、厳しい自然の弱肉強食の世界で生きる術を叩き込んでいきます。数年もの間、想像を絶する厳しい修行の末、もはや羊とは呼べない、二本の大きな角、岩をも砕く強力な蹄と鋭い眼光を持つ魔獣へと成長し、ウォーと共に森を荒らしまわることになったチリンの心には、親の仇であるウォーに対して、育ての親としての親愛の感情が芽生え始めていました。

ある嵐の夜に、ウォーの命令で生まれ故郷である牧場を襲うことになったチリン。番犬を一蹴し、とある一匹の子羊に襲い掛かろうとした次の瞬間、母羊がその身を挺してチリンの前に立ちふさがります。その様子を自身と重ね、母羊を思い出し躊躇するチリン。オオカミのウォーは、手本を見せてやると羊の親子に襲い掛かろうとします。チリンは、思わずその二本の角を振りかざし、ウォーに突進していきます。ウォーは避けることなく、まるでそうなることを望んでいたようにその身に角を受け、絶命します。

復讐を遂げることが出来たチリンの胸には、なぜかぽっかりと大きな穴が開いてしまいます。その恐ろしい形相から、牧場の羊たちからも受け入れられないチリンは、一人寂しく山に戻っていきます。

その後、吹雪の夜には首につけていた鈴の音が風に乘って聞こえてきますが、その姿を見たものはいなかったそうです。

さて・・・、子供向けのアニメーションとして制作、公開された作品ですが、なかなか骨太な作品ではないでしょうか? 小学校3年生の私には、当時すべてが理解できていたわけではありませんが、涙が止まらなかったことだけは良く覚えています。大人になって観返した時に、その深いテーマに本当に驚き、再び感動しました。

最近の子供たちが鑑賞している中には、なかなかこのような作品は無いかも知れません。どうしても万人受けする作品が中心となってしまうがちではありますが、その子たちの人生に深く突き刺さるような、一生に残り続ける作品を世に出せるように、日々挑戦し続けていきたいと思っています!(ご精読、ありがとうございました)

▼日誌に見る協会の動き

【12月】

- 3日 第394回定例理事会
- 4日 マーケティング委員会
- 6日 権利者団体対応委員会
著作権部会
- 10日 総合連絡委員会
- 17日 JVAの今後の在り方を検討する会議
- 19日 ACA企画広報部会
- 20日 業務使用対策委員会
- 23日 市場活性化キャンペーンWG全体会議



一般社団法人 日本映像ソフト協会

会員社名(五十音順) 2020年1月1日現在

■ 正会員(28 社)

アスミック・エース(株)
ウォルト・ディズニー・ジャパン(株)
エイベックス・ピクチャーズ(株)
(株) NHK エンタープライズ
NBC ユニバーサル・エンターテイメントジャパン(同)
(株) KADOKAWA
ギャガ(株)
キングレコード(株)
(株)小学館
松竹(株)
(株)ソニー・ピクチャーズエンタテインメント
(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
(株)第一興商
TC エンタテインメント(株)
東映ビデオ(株)
東宝(株)
東宝東和(株)
(株)東北新社
20世紀フォックス
ホームエンターテイメントジャパン(株)
日活(株)
(株)バップ
(株)ハビネット
(株)バンダイナムコアーツ
(株)ポニーキャニオン
ユニバーサルミュージック(同)
(株)よしもとミュージック
リバプール(株)
ワーナー ブラザース ジャパン(同)

■ 協賛会員(14 社)

(株)アニプレックス
(株)一丸堂印刷所
(株)IMAGICA Lab.
エイベックス・エンタテインメント(株)
SBS ロジコム(株)
カルチュア・エンタテインメント(株)
(株)キュー・テック
(株)金羊社
(株)ジャパン・ディストリビューションシステム
ソニー PCL (株)
(株)徳間ジャパンコミュニケーションズ
(株)博報堂 DY ミュージック & ピクチャーズ
(株)ムービーマネジメントカンパニー
メモリーテック(株)

2020年1月30日発行

編集・発行 一般社団法人 日本映像ソフト協会

〒104-0045 東京都中央区築地2-11-24 第29興和ビル別館2F
電話:03-3542-4433 FAX:03-3542-2535 <http://www.jva-net.or.jp>



サラリーマン 山崎シゲル

✕ 日本映像ソフト協会 <http://www.jva-net.or.jp/anti-ripping/>

アンチリッピングキャンペーン DVDのリッピングは違法です!

知って
いますか?

毎年 11月3日は
ビデオの日
<http://www.videonohi.jp/>